

静岡県豚コレラ防疫対策本部第1回本部員会議 次第

日 時 令和元年10月24日(木) 午前9時から
場 所 別館9階特別第二会議室

議 題

- 1 豚コレラの発生状況について
- 2 豚コレラ防疫対策本部決定事項(案)について

本県における豚コレラ発生状況

1 野生イノシシにおける豚コレラ陽性事例

(1) 届出場所の概要

所在地：藤枝市岡部町野田沢（道路上）

状況：野生イノシシ1頭（死亡）

成獣（雌）体長120cm 体重60kg

(2) 届出経緯

10月17日（木）9時30分 一般市民から死亡イノシシ発見の通報

中部家畜保健衛生所家畜防疫員が死体を回収

10月17日（木）18時20分 遺伝子検査の結果、豚コレラウイルス遺伝子を検出

(3) 確定検査

10月18日（金）17時55分 豚コレラ陽性と確定

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 海外研究拠点で確定検査を実施し、豚コレラ陽性と確認された。

(4) 周辺農場

10km内（周辺区域） 0戸

2 野生イノシシ検査状況（平成30年9月18日～令和元年10月17日）

- ・ 死亡イノシシ 39頭（陽性1頭）
- ・ 捕獲イノシシ 302頭（全頭陰性）

3 本県の対応

<緊急対応>

(1) 豚飼養農場への注意喚起

- ・ 死亡イノシシの確認地点から半径10km圏内には豚飼養農場がないことを確認した。
- ・ 県内の豚飼養農場全戸に異状がないことを確認した。

(2) 県豚コレラ防疫対策会議の開催

- ・ 日時 10月18日（金）午後7時から
- ・ 会場 静岡県庁別館7階第2会議室A

(3) 豚コレラワクチン接種に関する豚飼養者への説明会の開催

- ・ 日時 10月23日（水）
- ・ 東部、中部、西部の地域ごとに開催

静岡県内における野生イノシシの豚コレラ感染状況調査と

陽性イノシシの発見場所

野生イノシシにおける豚コレラ感染状況調査

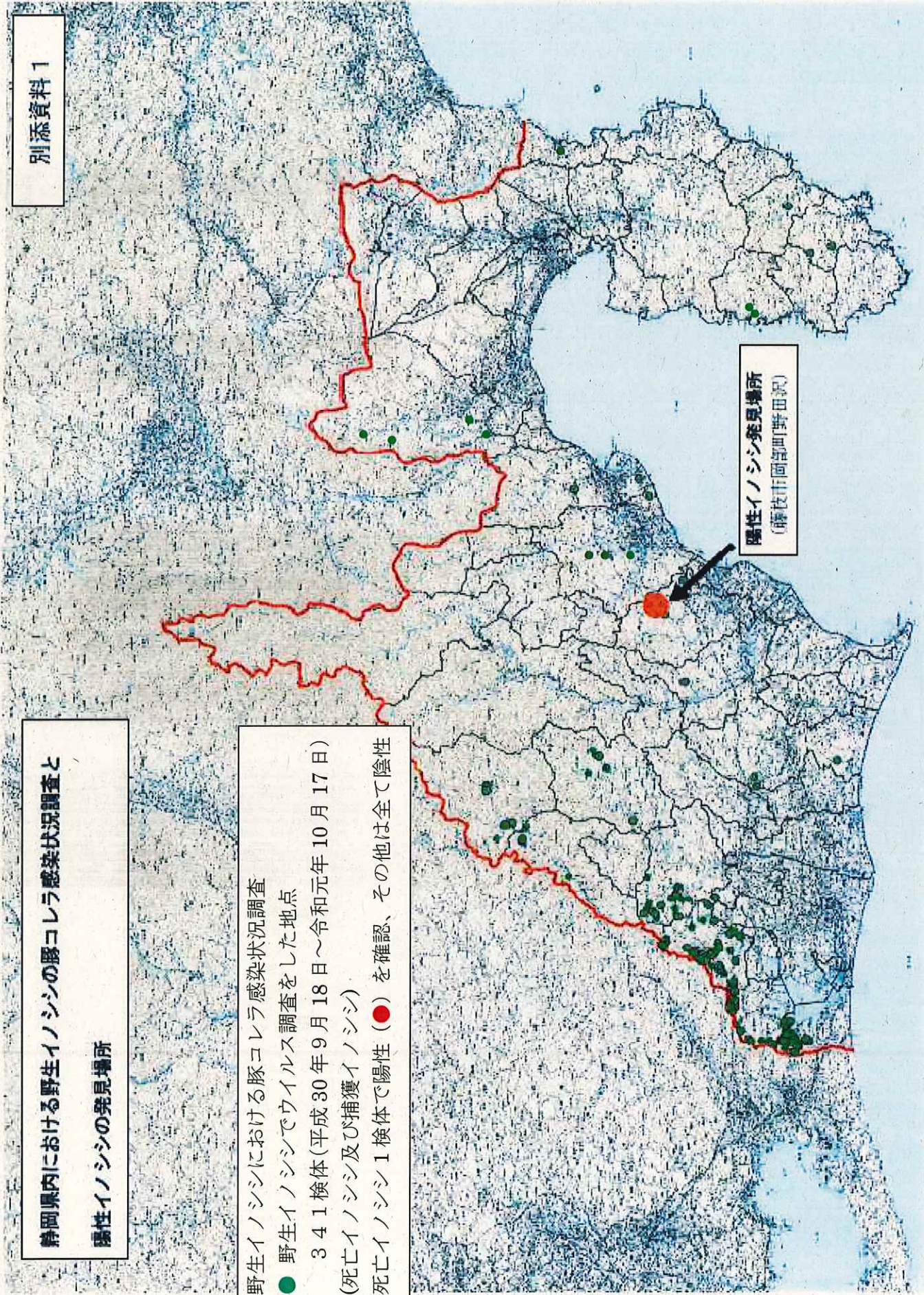
● 野生イノシシでウイルス調査をした地点

341 検体(平成30年9月18日～令和元年10月17日)

(死亡イノシシ及び捕獲イノシシ)

死亡イノシシ1検体で陽性(●)を確認、その他は全て陰性

陽性イノシシ発見場所
(藤枝市岡部町野田沢)



豚コレラ防疫対策本部決定事項（案）

予防的ワクチンの接種及び緊急対策について

1 要 旨

- 令和元年10月17日（木）に藤枝市内で発見された死亡野生イノシシで豚コレラ発生が確認され、農林水産省が「豚コレラに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づくワクチン接種推奨地域に指定した。
- 野生イノシシにおけるまん延防止及び農場への侵入防止に万全を期すため、県内での予防的ワクチン接種及び緊急対策を講じる。

2 予防的ワクチン接種及び緊急対策

項 目	内 容
豚への予防的ワクチン接種	農林水産省が本県をワクチン接種推奨地域に指定 ⇒ <u>ワクチン接種プログラムを策定の上、農林水産省や養豚農家等と調整し、家畜伝染病予防法第6条に基づき、接種を実施する。</u>
消毒の徹底	家畜伝染病予防法第30条の規定に基づき、家畜伝染病のまん延を防止するため、 <u>全ての農場に配布した緊急消毒用消石灰を用いて、一斉消毒を実施する。</u>
侵入防止柵の設置	農場周囲への野生動物侵入防止柵の設置事業に対し、 <u>県の追加助成を緊急的に実施する。</u> 補助率：国 1/2、 <u>県 1/2（農家負担なし）</u>
イノシシの捕獲及び検査	陽性イノシシ確認場所から半径10km圏内及び県中部地域を中心に、広域的に野生イノシシの捕獲を強化し、感染確認検査を実施する。

豚コレラ 県内初確認

藤枝 野生イノシシ感染

養豚場異常なし

県は18日、藤枝市で見つかった死骸の野生イノシシ1頭が、国の検査で豚コレラに感染

が拡大している一連の豚コレラで、県内での確認は初めて。これまでに県内の養豚場で異常は確認されていないという。豚コレラは人には感染しない。

県によると、17日午前、藤枝市岡部町野田沢の路上で通行人が死んだイノシシを発見。通報を受け、県が行った遺伝子検査で陽性反応が出た。発見場所から10キロ圏内に養豚場はない。

農林水産省は同日、豚へのワクチン接種の対象地域に本県を追加すると県に通知した。県は来週にも、養豚農家を集めてワクチン接種に関する意見を聞き

が否定できない」と指摘。県内広域でイノシシの捕獲や検査を強化し、県内全ての養豚場で近く一斉消毒を実施する。

県庁で記者会見した細谷勝彦農業局長は「県中部で広範囲に感染が広がっていること

は約120の養豚場があり、10万9100頭(2月時点)を飼育している。豚コレラは豚やイノシシに感染する家畜伝染病で、野生イノシシを介してウイルスが広がっているとみられる。昨年9月の岐阜市以降、埼玉、福井、長野、愛知、三重の計6県で発生。感染イノシシは6県と群馬、富山、石川、滋賀の4県でも見つかった

。県は18日、藤枝市で見つかった死骸の野生イノシシ1頭が、国の検査で豚コレラに感染

。県によると、17日午前、藤枝市岡部町野田沢の路上で通行人が死んだイノシシを発見。通報を受け、県が行った遺伝子検査で陽性反応が出た。発見場所から10キロ圏内に養豚場はない。

農林水産省は同日、豚へのワクチン接種の対象地域に本県を追加すると県に通知した。県は来週にも、養豚農家を集めてワクチン接種に関する意見を聞き

が否定できない」と指摘。県内広域でイノシシの捕獲や検査を強化し、県内全ての養豚場で近く一斉消毒を実施する。

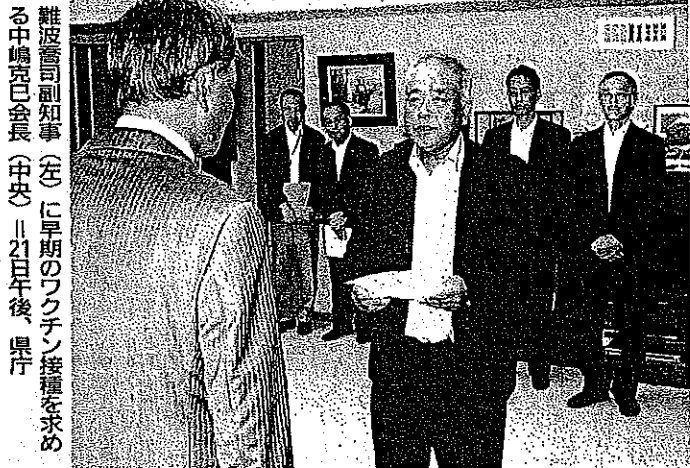
豚コレラ

「2週間でワクチン接種」

県手続き、農家「早急に」

藤枝市で豚コレラに地域に追加されたこと
感染した野生イノシシ
が見つかり、本県が豚
へのワクチン接種推奨
声が高まっている。感

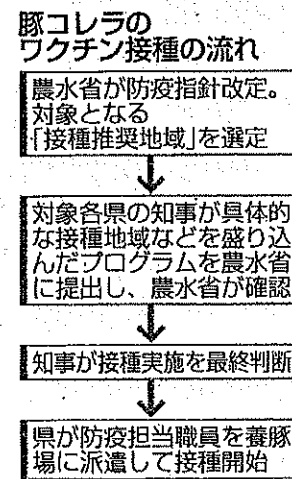
染が拡大すれば、養豚
場にまでウイルスが侵
入しかねないためだ。
県は「2週間程度で接
種にこぎ着きたい」と
必要な手続きを急ぐ
が、接種後は豚の流通
が制限されるなど経営
面への影響を懸念する
声も出ている。



難波畜司副知事（左）に早期のワクチン接種を求め
る中嶋克巳会長（中央） 11月21日午後、県庁

県畜協会は21日、
県庁に難波畜司副知事
を訪ね、ワクチン接種
に向けて早急に体制を
整えるよう要請した。
中嶋克巳会長は「県境
から離れた場所でも発
生し、養豚場の危機感
は強い。できるだけ早く
対応してほしい」と訴
えた。
県は接種計画を具体

的にまとめたプログラ
ムの策定に着手した。
23日には農家を対象に
した説明会を開き、早
期接種に向けた合意形
成を図る。
ワクチン接種は「豚
を進めてほしい」と話
（経済部・森田憲吾）



農林水産省は21日、
豚コレラ対策で実施す
る豚へのワクチン接種
に向け、対象地域11県
の有識者会議で了承さ

10県は週内にも接種

のうち、静岡を除く10
県の接種プログラムを
妥当と確認した。同日
に対象地域に追加され
た静岡県はプログラム
の提出前で今回の審査
対象になっていない。
農水省は備蓄してい
るワクチンを管理して
いる事業者にワクチン
発送の指示を23日にも
出す方針だ。各県はワ

コレラを食い止める最
善策」（県内農家）と
されるが、接種後は生
きた豚や受精卵などの
移動・出荷が原則、接
種地域内に制限される
課題もある。
関東や九州に種豚を
出荷する浜松市天竜区
の島居英剛さん(40)は
「経営に大きな影響が
出る懸念があるが、県
内には多くの感染イノ
シシがいると考えられ
るだけにワクチン接種
を進めてほしい」と話
（経済部・森田憲吾）

富士宮市の桑原康さ
ん(66)は「日本に豚コ
レラを広げないために
は早くワクチンを打つ
ことが重要」と指摘。
「行政は補償について
しっかりと考えてほし
い」と農家の経営支援
を強く求めた。
県内の養豚農家から
は「流通に影響が出な
いように全国一律でワ
クチン接種すべき」と
の声も出ている。

れたのを踏まえた。早
ければ週内にも接種が
始まる見通しだ。18日
に対象地域に追加され
た静岡県はプログラム
の提出前で今回の審査
対象になっていない。
農水省は備蓄してい
るワクチンを管理して
いる事業者にワクチン
発送の指示を23日にも
出す方針だ。各県はワ

クチンが届いて、接種
実施に関する告示など
の手続きを終えれば、
県の防疫担当職員を
養豚場に派遣して接
種ができるようになる。
接種の開始時期は県
によってばらつきが出
る見通し。三重県は25
日から、福井県は24日
にも開始すると明らか
にした。